

第 11 回米百俵賞受賞

(平成 19 年 6 月 15 日表彰)

ルダシングワ 真美

(ルワンダ共和国)



ルワンダの内戦によって、手足を失った人々のために、義肢装具の製作や義肢製作技術者の育成、障害者のリハビリと社会復帰支援などの活動を行った。

■受賞時プロフィール

会社勤めをしていたルダシングワ（吉田）真美氏は 26 歳のときにスワヒリ語を学ぶためケニアのナイロビに出掛け、そこでルワンダ生まれの現在の夫ガテラさんと出会った。ガテラさんは幼い頃の病気が原因で右足が不自由だった。平成 2 年、日本で診断を受けて装具を付け、その技術の高さを体験した二人は義肢製作の支援活動を考えついた。こうして氏は日本で義肢装具の製造技術を習得することを決意した。

氏は義肢装具の工房に弟子入りし、5 年にわたり様々な技術を学んだ。氏が工房で学んでいた平成 6 年、ルワンダで紛

争が勃発し、100 万人規模の大虐殺が起きた。なたや地雷で手足を失った人など、肉体的、精神的に障害を負った人々は人口の約 1 割である 80 万人にもものぼった。

紛争終結から一年後の平成 8 年、氏とガテラさんは手足を失った障害者のために義肢装具を製作したり義肢装具士を育成したりするため、私費を投じてム



▲ルワンダの義肢製作所での作業の様子

リンディ／ジャパン・ワンラブ・プロジェクトを立ち上げた。

二人はボランティアへの協賛を得るため何度か日本を訪れ、人的・物的支援を人々に呼びかけ、平成9年に寄附や自らの貯金を元手に義肢製作所を設立。ルワンダ人自身による義肢製作技術者の育成、障害者のリハビリテーションと社会復帰の支援などを行った。こうした活動がルワンダ政府に認められ、約1ヘクタールの土地を譲り受け、その土地に新しい義肢製作所を設立。年間約250本の義肢装具を無償で提供している国内随一の施設となった。

平成12年に開催されたシドニーパラリンピックには、氏の支援で義足を手に入れた義肢製作所スタッフ（元兵士）を水泳競技に送り出し、ルワンダ初の出場となった。また、平成14年からは遠隔



▲義手をつくる様子

地に車で出かけ「巡回診療」を始めたり、日本語やルワンダ語を学べる学校の建設をしたりと幅広い活動を展開している。

氏は「私はルワンダの地で一生を過ごし、骨をうずめることになるでしょう。そうなったときに、この活動が途絶えないように次の世代につなげて行きたい」と語っている。

■受賞後の活動

平成19年、ルワンダの隣国ブルンジにも義肢製作所を設け、義肢の製作と配布を開始。平成28年までに約3,000人に義足、装具、杖、車いすなどを配布した。しかし、ブルンジの治安の悪化により後年、撤退を余儀なくされた。

また、障害者の職業に関する技能を競う「国際アビリンピック」に毎回ルワンダの障害者を派遣。平成28年にフランスのボルドーで開催された大会では義肢装具士を参加させ、技術の向上につながった。

一方、ルワンダの義肢製作所は気候変動による大雨の影響でたびたび洪水に襲われた。令和元年には5度目の被害を

受け、修復工事を進めていたところ、翌令和2年1月、ルワンダ政府よりいきなり退去を命じられ、翌日にはショベルカーで建物を強制撤去されてしまう事態となった。撤去に当たり政府からの補償は全くなく、氏は経済的にも精神的にも非常に大きなダメージを受けた。しかし、「ルワンダには義足を必要としている障害者がまだたくさんいる」と再建を決意。クラウドファンディングなどで建築資金を集め、義肢製作所、レストラン・ゲストハウスを建設中である。



▲令和2年 ルワンダ政府による強制撤去



▲令和3年 完成間近の義肢製作所

■主な受賞歴

- 平成9年 国際ソロプチミスト女性ボランティア賞
- 平成12年 (財)日本顕彰社会貢献者表彰
- 平成17年 第17回毎日国際交流賞
- 平成20年 保健文化賞
- 平成20年 エイボン女性年度賞
- 平成24年 ソロプチミスト社会ボランティア賞
- 平成25年 神奈川チャリティアクションキャンペーン「かながわをもっと元気に！共感発信プロジェクト」グランプリ
- 平成25年 シチズン・オブ・ザ・イヤー2012
- 平成28年 READYFOR OF THE YEAR 2016 Global CHALLENGE
- 平成29年 平成29年度外務大臣表彰
- 平成29年 第21回地球倫理推進賞・文部科学大臣賞
- 平成30年 第25回読売国際協力賞
- 令和3年 第55回吉川英治文化賞